

## 第 2 回 神戸市立中学校標準服のあり方に関する検討会（議事要旨）

## ○第 1 回検討会議事要旨の確認について

- ・標準服の必要性、果たしている役割について
- ・標準服に求められる機能について
- ・標準服の価格について
- ・性的マイノリティへの対応について
- ・女子スラックスについて

## ○ネットモニターアンケート調査結果の報告について（意見含む）

- ・保護者の方々が中学校制服についてどういう印象を持っており、また、品質や価格についてどのように考えているのかを伺い、今後の検討の参考としてアンケートを実施。
- ・登録モニター数 5,475 名中、3,770 名から回答（68.9%）
- ・中学校制服に関する印象について
- ・中学校制服を購入する際に重視する点について
- ・中学校制服を購入した際の満足度（品質、デザイン、価格、耐久性、機能性）の結果について
- ・アンケート結果を踏まえ、「価格」「耐久性」「機能性」というキーワードを念頭に市立中学校制服のあり方を検討する。
- ・「中学校制服を購入する際に重視する点」の質問では「過去 10 年以内に購入」と制限していないため、購入当時の経済状況にばらつきがあり、収入や家族構成によっても違う傾向になると認識する必要がある。

## ○参考人からの意見聴取（衣服に関する専門的立場からの意見）について

- ・衣服の快適性、暑さや寒さの場合の温度調節など、研究成果を踏まえた意見。
- ・繊維が水蒸気を吸湿すると熱が発生する。つまり、暑いときに汗をかくと、繊維が余分な熱（収着熱）を作ってしまう。
- ・発汗開始により収着熱が発生し、血流量が余分に増加。血流量の増加により皮膚温が上昇。
- ・体が発汗した際の綿とポリエステル吸湿性の衣服表面温度を比較すると、吸湿性、衣服表面温度ともに綿が高い。また、発汗後の血流量の比較においても綿の方が高く、体は暑く感じる。つまり、発汗時の綿は、ポリエステルに比べて「暑く」、「不快」。
- ・発汗速度が高い人ほど、綿の衣服を着ていると収着熱が大きい。
- ・暑さを防ぐには積極的に熱を放散しやすく、吸汗速乾を妨げない衣服の着用が望ましい。
- ・中学生は体重増加より身長が伸びる時期。細身の割に体表面積が多く、冷えやすい体型が多い。
- ・小学校高学年から中学生にかけて、女子は背が伸び、手足が長くなる。そういう方ほど、スラックスを履くなどの方法で行動性に体温調節できる被服があれば良い。
- ・中学生に限らず、人によって暑さや寒さの感覚には大きな個人差がある。同じような衣服で体温をコントロールすることは難しく、開口部を閉鎖できるマフラーや手袋等の活用が望ましい。
- ・ウールは綿よりも吸湿性が高く温かくなる。また、吸水しない点がウールの良いところ。混紡の割合で吸湿、吸水は変わるが、制服はお互いの長所を活かせるように作られている。

## ○参考人からの意見聴取（学生服の供給側の立場からの意見）について

- ・国内のアパレル市場は約 98%が輸入品であり、国産品は僅か約 2%。その中で学生服に関しては殆どが国内生産を行っている。
- ・国内生産の理由として、短期間での納品対応、3年間着用に耐えうる丈夫な素材や縫製、高い染色技術、サイズにばらつきのない商品づくりなど安定した品質対応に加え、少量生産での対応が可能といったことが挙げられる。
- ・一方、30年後の学生の年代人口を比べると、現在の約3分の2へと減少していくことが予想され、学生服業界の市場規模が縮小するとともに非常に厳しい環境に置かれると推測される。
- ・学生服メーカーが考える制服の持つ価値や意義、影響として、①学校への愛校心や帰属意識を高め、②仲間意識や連帯感の醸成、③制服着用による気持ちの切り替え（オンオフ、メリハリ）、④周囲から学生であると識別され、風紀面、安全面、個々の行動の責任感が向上、⑤各家庭の経済格差が見えにくい、⑥3年間着用できて経済的といったことが挙げられる。
- ・制服を着用するのは学生であり、学生にとって快適な学校生活を送ることや、学生をサポートする保護者にとって安心できる制服を提供することを学生服メーカーとして大切にしている。
- ・機能性や耐久性についても様々に工夫しており、一般衣料より厳しい基準で制服づくりを行っている。例えば、家庭で洗濯できる制服では、3年間洗濯することを想定して実験を繰り返し、伸びたり縮んだりせず、色があせたり、色移りもしない。
- ・制服の着用時間は1日平均8時間から10時間。ほとんどの時間を前傾姿勢で過ごしており、ストレッチ性の生地や縫製方法を工夫してストレスがかからない制服も作っている。
- ・生地の耐久性についても、摩擦への強さや裂けにくさについては一般紳士服の3倍以上の強さとなるよう厳しい基準を設けている。
- ・神戸市の制服販売価格は、全国平均と比較しても安い方に位置している。（総務省統計局小売物価統計調査より）
- ・制服製造、販売に係る経費は、原材料価格の高騰、最低賃金上昇による人件費上昇、物流コストの上昇等により年々増加している。また、少子化の影響などにより、制服メーカーや販売店は将来展望が見えない状況にきている。
- ・価格を下げることは不可能ではないが、価格を下げることを求めるほど、快適な制服、保護者の安心を考えた制服からは遠くならざるを得ない。メーカーとしても機能や快適性が失われた制服を提供するわけにはいかない。

## ○意見聴取後の意見等

- ・生産量が増えれば安くなるという発想はあるが、5百着が1千着に変わる程度では価格は動かない。1万着、2万着といったレベルでない限り、価格が大きく下がるといったことはない。
- ・学校が女子スラックスを導入しても、採寸の場で販売店の方から「なぜ、女子がスラックスを履く必要があるのか。」等いろいろ言われることがあると聞く。メーカーとして、販売店への教育が大事と思う。
- ・市立中学校でスラックスを導入している学校は約15%程度。本検討会の議事要旨も公開するため、今後の参考として各学校の取組みに活用していただきたい。
- ・学生服供給側の取り組みを聞いて、制服には様々なメリットがあり、制服という文化は残すべきであると感じた。